

## 12 タマシキゴカイ

(タマシキゴカイ科)

兵庫県ランク:C

*Arenicola brasiliensis*

環境省ランク:指定なし

### 種の概要

北海道室蘭以南に分布する。体長300mm。波静かな砂質から砂泥質の干潟にU字型の深い巣穴を掘り、地表にとぐろ状の糞塊を築く。タマシキゴカイ類の卵塊は独特の形状をしており、漫画の吹き出しのような形のゼリー状で、干潟表面に付着している。近縁の北方系種イソタマシキゴカイは鰓の数が13対であるのに対し、本種は11対であることで識別される。

### 主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			○				

### 県内分布

姫路市、たつの市、赤穂市、洲本市

### 県内における生息状況及びその他特記事項

BからCに変更。播磨西部と淡路島中部で記録がある。淡路島では港の横にわずかに干出するような干潟で記録があることから、今後の調査で新たな生息場所が見つかる可能性があるが、大規模な個体群が見つかる可能性は高いとは言えない。

### 保護上の留意点

本種の国内における分布域は広く、国外でも記録されているが、県内では確認されている生息地は少ない上個体群規模も小さい。本種の主な生息域である内湾の砂質・砂泥質の干潟は、埋め立てなどの物理的な生息域破壊に加え、水質汚染の影響を受けやすい場所でもあることに留意が必要。



写真提供：神戸市立須磨海浜水族園



【執筆者】 渡部哲也